

● ハンドピースのお手入れ タービン、イントラシャンク、イントラヘッド

※手入れは、必ず患者毎に実施します。
※手入れ時は、グローブ、マスク、保護メガネなどで防護します。



1. ハンドピースよりバーを取り外します。

・バー等は、回転が完全に停止してから、取り外してください。

<p>注意</p>	<p>・フットペダルを踏みハンドピースが回転している状態で、プッシュボタンを押さなでください。（チャックやヘッドキャップが損傷し寿命が極端に短くなります。）</p>	
------------------	--	--

バーは、製造メーカー取扱い説明書に従い、適切に手入れを行ってください。

<p>注意</p>	<p>・バーの取扱い説明書に薬液洗浄が推奨されている場合は、その手順に従ってください。 ・但し、薬液に浸したバーは、十分に水で洗い流し、ワイプで水分を取り除き、滅菌後、ハンドピースに装着してください。 ・水洗を行わずそのままハンドピースに装着すると、バー表面に残った薬液がハンドピースのチャックに付着し、チャックの保持力が弱くなったり、寿命が極端に短くなります。</p>	<p>薬液が付着した状態のバーをハンドピースに装着しないでください。</p>
------------------	---	--

2. ハンドピースの表面に付着している血液や汚れをアルコールを染込ましたワイプで拭き取ります。

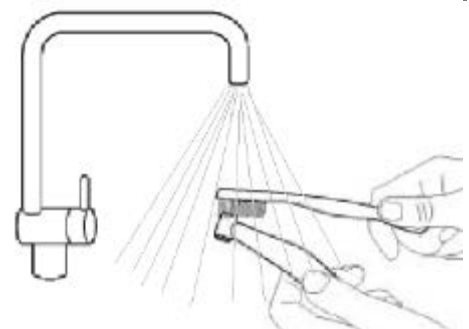
3. ハンドピースを、モーター、マルチカプリングから取り外します。

4. ヘッドとシャンクが分離できるものは、ヘッドを取り外し、別々に手入れを行います。

5. 水道水の流水下でブラシを使いハンドピースの外側の汚れを洗浄します。



<p>注意</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 洗剤を使用しないでください。 ■ 薬液にハンドピースを浸さないでください。 ■ 超音波洗浄は行わないでください。
------------------	--


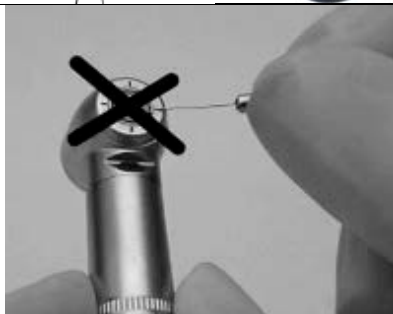


6. 冷却スプレーの出方が悪い場合は専用のクリーニングニードルで清掃します。

タービンやハンドピースの、水の出方が悪い場合

- ・ハンドピースのスプレーホールをチェックします。
詰りがありましたら、専用のクリーニングニードルで、
力を入れないで軽く突っつくレベルで清掃してください。

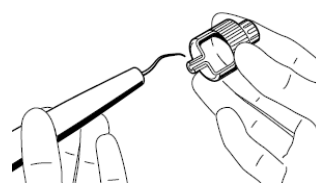


 <p>注意</p>	<p>クリーニング時、無理な力や方向に 差し込まないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スプレーの小さいホールは、専用のクリーニングニードルで清掃してください。 異なる針での清掃、間違った方向よりの差し込み、強い力での清掃は、スプレーホールにダメージを与えます。 	
--	--	---

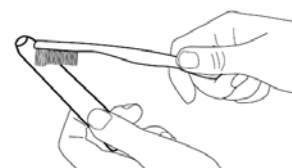
● ハンドピースのお手入れ エースケーラー

※手入れは、必ず患者毎に実施します。
※手入れ時は、グローブ、マスク、保護メガネなどで防護します。

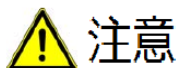
1. 手入れは、専用のトルクレンチ・クリーニングニードルを使って行います。
2. エースケーラーやチップの表面に付着している血液や汚れをアルコールを染込ましたワイブで拭き取ります。
3. 専用のトルクレンチを使ってチップを取り外します。



4. エースケーラーをマルチカプリングより取り外します。
5. 水道水の流水下でブラシを使いハンドピースの外側およびチップの汚れを洗浄します。

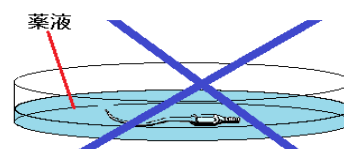


チップおよび本体は、薬液に浸漬しないでください。



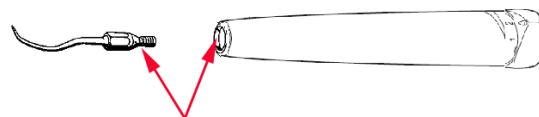
注意

- ・チップの洗浄は、水道水の流水下でブラシを使い汚れを落とすして下さい。
- ・スケーラーチップは薬液や超音波洗浄器による洗浄を行わないこと。(薬液に浸すとネジの溝部分に薬液が浸透し、ネジ部が弱くなり折れ折れやすくなります。)
- ・洗浄後は、チップ内に残留の水分を清潔なエアで吹き飛ばします。(内部よりの腐食を防ぎます。)



6. チップに水詰りがある場合は、専用のクリーニングニードルで洗浄します。

チップと本体の接続されるテーパ部分の汚れを取ります。



スケーラーチップ・クリーンブラシの交換

- ・チップは、9～12ヵ月を目安に交換してください。
消耗や変形を使用前に確認して適さないものは、交換してください。
- ・クリーンブラシは、10回の滅菌を目安に交換してください。
消耗や抜け等を使用前に確認して適さないものは、交換してください。

7. カボスプレー又はクアトロケア等でのクリーニング/注油を行います。

これらのスプレーは、内部のベアリング等にある、汚れのクリーニングと、潤滑材としての注油の役割があります。

カボスプレーによるクリーニング/注油

(スプレーは、滅菌前に行います。滅菌処置を行わない場合でも、少なくとも昼夜の2回行います。)



タービン
チャック部からオイルが出てくるまでスプレーします。
(約2秒)
・滅菌前
(毎日 昼夜)



ヘッド部
シャンクと分割できるヘッドは、分割してスプレーをする。
(約2秒)
・滅菌前
(毎日 昼夜)



チャック部
チャック部専用ノズルでスプレーをする。
・1週間に一回以上



シャンク
ヘッドと分割できるシャンクは、分割してスプレーをする。一体型は、シャンクにスプレーをする
(約2秒)
・滅菌前
(毎日 昼夜)

<p>注意</p>	<p>カボスプレー使用時の注意 スプレー缶を傾けないで、机の上などに立て垂直にして、使用してください。 ※専用のクリーニングパックを使うと、オイルの飛散防止や汚れの確認ができます。</p>	
------------------	---	--

クアトロケアによるクリーニング/注油

クアトロケアは、適切な注油と余剰のオイル分を取り除くことが可能な機器です。

(スプレーは、滅菌前に行います。滅菌処置を行わない場合でも、少なくとも昼夜の2回行います。)



ハンドピースをセット



フタを閉じる



スタートボタンを押す



自動で注油完了

※インストルメントのチャック部には、1週間に1回以上専用のスプレーノズルを使いスプレーをします。

KaVo 5倍速コントラハンドピースの手入れ

(スプレーは、滅菌前に行います。滅菌処置を行わない場合でも、少なくとも昼夜の2回行います。)

・スプレーによる手入れは、他のハンドピースより重要です。



- ・スプレーによる手入れは、他のハンドピースより重要です。
- ・不十分なスプレーは、内部の汚れが洗浄できなく、潤滑としての油分も足りません。結果、回転不良や発熱が短期間で発生し、ハンドピースの寿命が短くなります。
- ・カボスプレーやクアトロケアでのクリーニング/注油が、重要です。

8. 高圧蒸気滅菌器(オートクレーブ)を使用し、135°C にて滅菌を行う

- ・滅菌は、患者毎にの使用後の、1～7までの手入れを終了してから行います。
- ・滅菌は、ハンドピース等に滅菌表示のある機器が可能です。



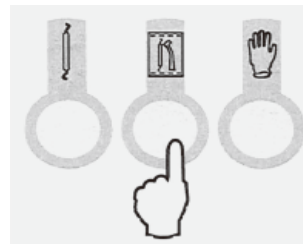
※ステイテム900Jによる滅菌方法



引き出しを開く



インストルメントを均一に
セットする



滅菌モードを選択して
スタートボタンを押す

9. 滅菌後の保管

- ・滅菌終了後は、オートクレーブ内に放置しないでください。直ちに乾燥してください。
(ハンドピースに錆が発生する可能性があります。)
- ・滅菌および乾燥を終了したインストルメント類は、乾燥した汚染のない場所に保管してください。

10. 長期保管前および長期保管後の再使用時の注意

- ・長期保管前には、1～9の手入れを行い、乾燥した汚染のない場所に保管してください。
- ・再使用する場合は、ハンドピースが安全・正常(振動・ブレ・発熱・緩み等ないこと)な作動の確認と1～9の手入れを行ってから、使用してください。